

教育目標

豊かな心を持ち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は自然とかかわりだけでなく、心が動き、様々な「気付き」が生まれた場面に注目し、この「気付き」と「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」との関連をとらえながら、保育の充実をはかってきた。次年度には「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の項目が具体的にどの時期に現れるのかを分析することで、子どもの育ち（学年や年度の時期）との関連をより明らかにしていきたい。 ・未就園児クラスの活動や預かり保育の充実により、幼稚園における地域の子育て支援センターとしての役割を一定果たすことができた。次年度も「健やかな子どもの育成」のために未就園児・在園児保護者の子育てへの不安や希望に寄り添っていきたい。地域に本園の活動をさらに周知できる工夫をしていきたい。 ・小学校1年生と対面での交流を基に、「協同性」を視点に互いの教育について連携を進めることができた。次年度は「架け橋プログラム」の実践初年度として、近隣の幼保小との連携をさらに進めていく。子どもの交流を軸に、お互いの教育・保育実践を見合い、相互理解を進めるとともに、「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の捉え方などの発信に取り組みたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切にする園の姿勢は地域や保護者に十分理解されている。保育・教育活動がより充実したものになるよう、働き方改革も進めていきながら、地域の力を活用してほしい。今後も地域と幼稚園をつなぐ支援を継続していきたい。 ・京都市教育委員会から「教育功労者表彰」を受け、またソニー教育財団の実践論文にも積極的に応募し評価されるなど、本園の保育への取組が評価されたことは大変喜ばしい。今後も園の取組を広く発信していくことを期待している。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年8月27日（火）	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価	令和7年3月10日（月）	学校運営協議会（なかよし会）

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子どもが、周囲の環境とかかわりあいながら、感じたり、気付いたり、疑問に思ったりして、心を動かし、夢中になって遊び込めるような環境をつくり、教師の援助をする。
- ・子どもが夢中になって遊ぶ中で“気付く”姿に着目し、また週案に「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」に当たる項目を明記し、10の姿との関連を意識した保育に取り組む。
- ・導入や振り返りなどに ICT 機器を活用し、子どもの好奇心や探究心をより豊かに育む ICT 機器の在

り方を探り、取り組む。

- ・昨年度目指してきた「学年の枠を越え、園全体で共に感じ合い、つながり合える環境づくり」を今年度も大切にして、その環境構成に必要な情報を教職員相互で共有し連携する。
- ・園庭や遊戯室で多様な運動遊びを楽しめる場をつくり、教職員も共に楽しみ、遊びのモデルとなる。
- ・幼稚園きょうだいが互いを知り合い、親しみを感じる取組を、行事や保育の中で展開する。
- ・クラスで集う場で、絵本の読み聞かせや遊びの振り返り、話し合いなどを通し、相手の話に興味をもち、人の話を好んで聞く姿勢が育つよう工夫する。
- ・諸感覚を通して心豊かに感じる体験ができるよう、身近な自然環境や可塑性のある素材に触れ、思いを表出できる環境を整える。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・週案の振り返りによる環境構成の見直しや日々の保育カンファレンスによる子どもの姿の見取り
- ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り
- ・保育活動充実のための ICT 活用での振り返り

アンケート

- 「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
- 「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」
- 「子どもは、幼稚園で絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」
- 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話の聞いたりしている」
- 「子どもは、幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている」
- 「子どもは、感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている」
- 「子どもは、様々な遊びの中での気づきを生かして、さらに遊びを工夫して楽しんでいる」
- 「幼稚園は、子どもが自然を身近に感じるための環境を工夫している」
- 「幼稚園は、子どもが様々な素材に触れ、遊び、気付く機会を設けている」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の振り返りによる環境の再構成を積み重ね、様々な自然に触れたり体を動かして遊べるよう工夫した。
- ・竹林に複数回でかけたり「みつけバック」に見つけた草花などを入れたりして地域の自然に親しんだ。
- ・ICT を観察に用いたり、視覚的に確認できる工夫をした。
- ・地域への散歩のほか園内で遊ぶ機会を通して幼稚園きょうだいとの温かいかわりが見られる。
- ・総合遊具のほか、竹馬や三角馬、プール遊びなど体を動かすことを十分に楽しむことができた。
- ・砂・泥・色水・泡・粘土・絵の具など様々な素材に触れる遊びを体験し、感触を楽しんだ。思いのままに楽しんだが、思いを素直に表出することを今後も続けていきたい。

アンケート（A：大変そう思う B そう思う C あまりそう思わない D そう思わない）

自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる（A83.3% B16.7%）

園は自然を身近に感じるための環境を工夫をしている（A93.3% B6.7%）

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる（A83.3% B16.7%）

幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている（A56.7% B43.3%）

絵本を見たり、お話を聞いたり見たりを楽しんでいる（A56.7% B40% C3.3%）

園は様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている（A73.3% B26.7%）

感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている（A46.7% B46.7% C6.6%）	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・蝶の幼虫を育て羽化まで見届けたり、ダンゴムシやカミキリムシを飼育しどんな餌が好きか考えたりなど、小さな命に触れ、自然を身近に感じ、愛着の芽生えが見られた。4歳児が5歳児の経験を受け継いだり、5歳児が自身の経験をもとに、また他児との対話から思考を深めたり、個々の思考が集団の思考へとつながったりなどして、思考が深まり広がる姿が見られている。 ・見つけた地域の自然を「みつけバック」に集めたり、虫の餌となるものを家庭から持ってきてもらったり、毎年笥掘り等でお世話になったいる竹林への園外保育に保護者参画をするなど、子どもの興味を保護者と共有することで保護者にも園や地域の自然への関心が高まった。 ・幼稚園きょうだいに関するアンケートでは5歳児の方が「大変そう思う」の評価がやや高い。子どもが興味をもって取り組んでいることがうかがえる。後期は行事も多いため、保護者に子どもの姿を見ていただける機会も多くなる。幼稚園きょうだい互いに思い合えるような環境づくりを行い、保護者への発信を進めていきたい。 ・体を動かして遊ぶ機会を大事にしてきたが、それがアンケートにも高評価として表れている。2学期は運動会も計画している。さらに、四肢を十分使った遊びの経験や継続した運動的な遊びを取り入れ、しなやかな心と体の育成を図ると共に、素材に触れて遊べる環境も意識していきたい。 ・友達に自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりする「言葉での伝え合い」の力はまだこれから伸びていく力である。協働して取り組む中で、それぞれの思いがぶつかったり、せめぎ合ったり、共感したりする場面を見逃さず、そのときの気持ちや思い、考えを伝え合うように仕向けていきたい。アンケートから人とかかわりの中で、もっと感じたり思ったりしたことを、様々な表し方で表現してほしいという保護者の願いのあらわれが伺える。園としてもありのままの思いを言葉を含めて安心して表せることを大事に取り組んでいきたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが心を動かし、感じたり、気付いたりしたことを伝え合えるように、園の環境構成を整えたり、園外保育を計画したりしていく。 ・様々な素材に触れて思いのまま遊んだり、思いを表現したりする活動を行う。 ・自分の力を発揮したり満足感や充実感が味わえたりできるよう、体を動かして遊ぶことを継続して行う。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の振り返りによる環境構成の見直し ・日々の保育のカンファレンスによる子どもの姿の見取り ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿の見取り
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「気付き」や「安心と挑戦」に着目して研究していることの報告を受け、幼稚園がしっかり取り組んでいることが良く分かった。今後も子どもの育ちのために頑張してほしいし、協力していきたい。また、地域の自然に親しみを感ずることはとても良いし、これからも大切にしてほしい。苗屋さんへの参加や七夕の笹の提供も今後も継続していきたい。

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」に着目した週案作成を行い、それを基に日々の保育を

振り返り、互いに語り合うことで、子どもの気づきがさらに深まったり広がったりできるよう、環境を再構成し改善を行った。

- ・事例研修を行い子どもの内面の理解や育ちの見取りを行った。
- ・地域へ歩いて出かけ自然に触れて遊ぶ園外保育を実施。ドングリをたくさん見つけたり道端の草花に関心を寄せる姿が見られた。
- ・それぞれの季節その時しか味わえない自然現象を逃さないよう心掛けた。
- ・園内の栽培物の葉や茎を使って遊んだり、収穫物を食したりして、園内の自然環境に目を向け、関心を深める保育に取り組んだ。

アンケート（A：大変そう思う B そう思う C あまりそう思わない D そう思わない）

1. 園は子どもが心を動かし、夢中になって遊び込める環境を工夫している（A80% B20%）
2. 幼稚園は様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている（A77.1% B22.9%）
3. 自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる（A51.4% B45.7% C2.9%）
4. 体を動かして遊ぶことを楽しんでいる（A68.6% B28.6% C2.8%）
5. 幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている（A48.6% B45.7% C5.7%）
6. 自分の思いを話したり先生や友達の話の聞いたりする（A60% B34.3% C5.7%）
7. 感じたり思ったりしたことを表そうとする（A48.6% B45.7% C5.7%）
8. 絵本を見たり、お話を聞いたり見たりを楽しんでいる（A57.1% B42.9%）

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・子ども一人一人の「気づき」が様々な試す姿や人に「気づき」を伝える姿につながり、新たな「気づき」が生まれたり友達に「気づき」が広がったりしながら幼児なりの主体的で対話的な学びが生まれた。
- ・自らの「気づき」を人に伝え、人の「気づき」に興味関心を寄せることを丁寧に支えてきたことや様々な素材に触れて遊ぶ経験から、自分の思いを表したり伝えたりする力も育ちつつある。
- 1・2. 今年度は、「心を動かし、夢中になって遊び込む保育を創る」という園内研究テーマで一年間取り組んできた。前期以上に後期の評価が高く、園環境の工夫への理解と幼稚園教育の発信が評価された表れだと感じる。来年度も、より一層、一人一人が心を動かし、夢中になって遊び込む保育を目指し、園内の環境を整え得ていきたい。
- 3. 後期は秋・冬野菜の収穫や、ポップコーンおいもパーティー、自然物を使った遊びや製作などを行ってきた。しかし後期の評価が下がっているところを見ると、前期のような苗屋さんや夏野菜の栽培などの取組以上の発信が不十分だったり、自然を身近に感じられるための環境への意識ができきれていなかったりと、再構成の余地がまだまだあるという表れだともとれる。来年度も、園内の環境を見直し、また地域の自然に目を向け、保育に取り入れていきたい。
- 4. 後期は、運動会、マラソン大会などの取組を行ってきたことで、教職員の評価はあがっているが、保護者の評価は前期よりも下がった。これは、これら2学期以降の取組において、子どもの運動遊びの保障は十分できたが、その分、個々の意欲や興味に差があり、体を動かすことを十分楽しめたかどうかという評価に個人差が出てきたともいえるのではないかな。教職員との評価に差がある点も、保育のより細やかな発信不足の表れでもあるかもしれない。近年、子どもの運動能力が低下してきている。来年度も、今年度同様の取組は継続しながら、子どもが運動遊びの意義や願い、今子どもたちが何を楽しんでいるか、などを丁寧に発信しながら、子どもたちがより意欲をもって楽しめる内容、教師の援助を探りながら取り組んでいきたい。

	<p>5. 4・5歳児ともに、後期になると互いの関係性ができてきて、幼稚園きょうだいをより身近に感じるようになり、子どもの成長を感じる場面も増えてきたのは事実だが、評価が思った以上に高くならなかったところを見ると、保護者、教職員ともに、親しみ具合や関係性に個人差もあったことの表れでもあるのかもしれない。来年度はもっと教職員が意識して学年の枠を越えたかわかりにも力を入れてつながりを深めたい。</p> <p>6・7. 保護者、教職員ともに前後期ともに同じような評価であることから、自分の思いを素直に表情、態度、言葉で表出、表現する、という部分であり、ここが園全体の課題ともいえるだろう。まずは安心して自分のありのままを素直に出せる環境、人間関係の構築、さらに言葉による表現、対話にも来年度は引き続き力を入れて、取り組んでいきたい。</p> <p>8. 保護者、教職員ともに、前期よりも評価が高くなっている。後期は特に、サンタクロース、生活発表会など保育の中で、お話の世界からイメージを膨らませて遊びや生活を送る機会を多くもってきた。そのことが絵本への興味、関心につながったともいえるかもしれない。来年度は絵本に親しみ、お話の世界に浸れる豊かな心、また自然とのかかわりにもつなげて、「見たい」「知りたい」という好奇心、探究心を育てられるよう、年間通じて取り組んでいきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」に着目した環境構成を工夫する。 ・安心して自分のありのままを素直に出せる環境、人間関係の構築、言葉による表現・対話を行う。 ・自ら意欲をもって楽しく体を動かして遊ぶ活動内容を工夫し発信する。 ・一人一人の「気付き」が広がり深まる中で、伝え合いつながり合うことを楽しむ保育を推進する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育功労者表彰やソニー教育財団への実践論文の受賞など意欲的に保育に取り組んでいる結果が評価されており喜ばしい。今後も子どもたちのために充実した保育を作り上げてくれることを期待し、今後も支援していきたい。 ・保護者の安心を得る保育を実践していることをうれしく感じている。 ・ちょっと難しい事や初めての事にも挑戦しようとする意欲を感じる。そのような子どもの力を育んでいくことを今後も期待する。

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小で交流・連携を行う際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「3つの資質・能力」を手掛かりとしながら、架け橋期のカリキュラムを意識し、2年間で育てたい力を掲げること ・交流の事前事後の協議では、常に焦点化した話し合いを進めていく。 ・自園の研究保育を近隣の幼保小に公開し、幼児期の育ちや学びの共有を図る。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前事後協議の実施と『10の姿』『資質・能力』などの視点での協議内容 ・研究保育の公開と協議の実施と内容 <p>アンケート</p> <p>「子どもは、小中学校との交流を楽しんだり、あこがれをもったりしている」</p>

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流の年間計画を立てる際、架け橋プログラムについて小学校と共通理解を図り、時間を有効活用しながら密に連携を進めた。年間通じて子どもの姿をみとっていく共通の視点を挙げ、その視点をもとに子どもの姿を見つめ、交流前後の協議をしていくことを共有した。その上で、互いに授業を参観する計画を立て、幼稚園が入園後の１年生の授業を参観したり、小学校が５歳児の保育を参観した。また、幼小共に研修動画視聴をした後に話し合いをもち、互いの今の子どもの実態や願いに基づき、幼小の接続がスムーズにいく手立てを交流した。 <p>アンケート（Ａ大変そう思う 54.8％ Ｂそう思う 41.9％ Ｃあまりそう思わない 3.3％）</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <p>連携の意義や架け橋プログラムについて相互理解を図り、幼稚園・小学校双方で今年度は「１０の姿」の「共同性」に視点をあてたことで、交流の事前協議において、視点に沿って交流の意義や活動内容、導入などについて、幼小が密に話し合いを進めていくことができた。</p> <p>１学期の小学校との交流が教員中心だったこともあり、保護者にはやや見えにくくアンケート結果が低く出たと分析している。今後、幼小連携の取組をさらに発信する必要がある。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>幼小会議の定期開催や相互の授業参観と研究協議、合同行事を行っていく中で、子どもの育ちや課題、願いなどを共有し、架け橋期の取組や今後の交流の在り方を協議し連携を深め積み上げていく。</p>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前事後の協議の実施と「１０の姿」などの視点での協議内容 ・研究保育の公開と協議の実施と内容
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>幼稚園と小学校がつながっていくことはとても大切なことであり、さらに深まっていくことを期待している。</p>

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・１年生と５歳児との人数差が大きいため、４歳児も共に交流を行った。 ・小学生と園児で小グループを作り、地域の公園で自然を感じる交流活動をして、その成果物を使った交流をしたり、就学・進級を控え期待感をもちながらの交流や訪問などを行った。「１０の姿」の「協同性」に視点を置き、交流の計画・振り返りを行った。 ・令和７年度からの架け橋プログラムの実践に向けて、幼保小の連携を進めるための小学校長や園長で連携・接続会議を行った。実際に顔を合わせ話し合うことで、今後つながっていく大きな一歩となった。 <p>アンケート（Ａ大変そう思う 48.6％ Ｂそう思う 42.9％ Ｃあまりそう思わない 8.5％）</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流に際して「協同性」に視点を置いた事前事後の協議により、幼・小互いの交流のねらいを明確にし、ねらいに応じた活動内容の計画・実践ができ、子どもの育ちを話し合うことができた。 <p>Teams の活用や連携主任間での協議など協議の時間を捻出し取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設との交流のきっかけづくりとして、「花と野菜の苗屋さん」に向けて５歳児が育て

学 校 関 係 者 評 価	<p>た苗を就学前施設へプレゼントした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の公開保育を小学校の先生に見ていただくことができた。また、小学校の道徳授業参観に参加させていただき、互いの教育活動への理解が進んだ。今後は近隣の就学前施設にも公開保育を行い、小学校との縦のつながり、就学前施設との横のつながりをつくるきっかけにしていきたい。 ・交流時の幼稚園児と1年生との人数格差は4歳児を含めても大きく、今後の幼保小の連携・接続の中で縦横のつながりをつくるのが互いの子どもにとってプラスになると考える。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度設定できた幼保小の連携・接続会議を軸に、架け橋プログラムの実践を進めていく。 ・「10の姿」に視点を置いた交流活動の計画・事前事後の協議を重視する。 ・保育を積極的に公開し、忌憚のない互いの保育や教育に対する意見交換を進め、相互理解を深める。
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校にも「なかよし会」がある。「なかよし会」として幼稚園と小学校とつなぎ、子どもたちが安心して就学できるよう見守りたい。 ・それぞれの就学前施設のカラーを尊重し合い、連携を進めてほしい。

(3) 預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度からの未就園3歳児クラスの預かり保育開始に伴い、3歳児の心身の負担に配慮し、状況に応じて午睡や休憩ができる環境を整える。 ・異年齢児が交わり合いながら、一緒に遊んだり、過ごしたりする中で、一人一人が安心して過ごし、かかわることを楽しめるような一日の流れ、また玩具準備について、担当者と担任で連絡・検討する。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育週案の振り返りによる子どもの姿の見取り ・担当者と担任との連携の振り返り <p>アンケート</p> <p>「子どもは預かり保育に安心して参加している」</p> <p>「未就園3歳児の預かり保育や8時から18時までの預かり保育は子育ての支援につながっている。」</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の午睡は保育室や絵本室など適した環境を模索し、昼食後一定時間の休憩時間を設け午睡を促した。夏季休業中の預かり保育では、4・5歳児も暑すぎる夏を健康に過ごすため昼食後の休憩時間を設け、午睡がしやすい環境を整えた。 ・3学年が同じ場で遊ぶため、それぞれの発達に応じた玩具やその配置の工夫を行った。 ・子どもの遊びの様子や健康面について担当者と担任が連絡連携し、必要に応じて家庭にも様子を伝えた。 <p>アンケート</p>

安心して参加している A大変そう思う 58.1%、Bそう思う 35.5%、Cあまりそう思わない 6.4%
未就園 3 歳児の預かり保育は子育て支援につながっている A大変そう思う 80.6%、Bそう思う 19.4%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・昼食後に一定時間休憩・午睡の時間を設け、ある程度定着し、午睡が必要な子どもが眠れることで様子も安定してきた。
- ・今年度 3 歳児の参加が増えており、玩具の扱いや部屋での過ごし方への不慣れから、全体的にやや落ち着かない様子が見られたが、環境を工夫したり、また、3 歳児が 4・5 歳児の遊びを間近で見ることで玩具の扱いも少しずつわかり、3 学年が少しずつ落ち着いて一緒に遊ぶようになってきている。
- ・アンケートから保護者は概ね預かり保育に安心して参加していると考えているが、新たな環境に慣れることを優先に考え、まだほとんど利用していない子どももいたり、長時間幼稚園にいることに戸惑う子どももいたりする。毎日の預かりの時間を楽しみに参加できるような環境や、安心できる居心地がよい雰囲気を心がけていく。また、保護者の就労等や家庭事情により毎日参加する子どもがマンネリ化しないよう、遊びの内容や場づくり、教材選びなどを工夫していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・4・5 歳児が楽しめる玩具と 3 歳児が楽しめる玩具を意識した遊びの場の環境構成をする。
- ・ボール遊び、絵本の読み聞かせなど子どもが楽しみにできる企画や、季節に応じた遊びを取り入れる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・週案による振り返りと発達に応じた玩具の出し方など環境構成の見直し
- アンケート 前期と同じ項目

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・3 歳児の預かり保育利用が増えてきていることはよかったが、先生たちは大変だと思う。子ども同士の縦のつながりを生かすなどの工夫をすればどうか。
- ・そうした努力が次の入園に生きると思う。頑張ってほしい。
- ・預かり保育内容の充実のため、ボール遊びや絵本読み聞かせ等に協力したいと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・細かなパーツのある玩具の出し方を工夫することで 3 歳児も落ち着いて遊ぶ姿が増えてきた。また、4・5 歳児がつくったものを 3 歳児に見せたり渡したりしたことが大事に扱う気持ちにつながった。
- ・各学年ともに、簡単なルールがある遊び（ボードゲームや将棋など）を担当者とまたは子ども同士で遊ぶようになってきた。
- ・冬季は毛糸を使った遊びを取り入れ、いつもと違う材料を楽しんだ。
- ・なかよし会による読み聞かせやボール遊び、昔遊びなど 3 歳児への配慮を行いながら実施。

アンケート

安心して参加している（A71.4% B28.6%）

未就園 3 歳児の預かり保育は子育て支援につながっている（A82.9% B14.3% C2.8%）

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期にぐんと評価が上がっていることから、幼稚園生活に慣れてきた後期になると、ふかふかランド（預かり保育）を利用する子どもたちも、安心して、意欲的に遊び、充実して過ごせていることがうかがえる。早朝から夕方までの預かり保育への評価も高く、子育て支援の一助となっていることを感じる。今後も、保護者の声を聞きながら、預かり保育の在り方を探っていきたい。 ・なかよし会による遊びの提供は預かり保育の内容を彩り、充実につながっている。 ・預かり保育とクラス担任との連絡連携も丁寧に行い、保護者への伝達事項が抜け落ちないように心掛けたことも預かり保育の安心感につながっていると考える。今年度は未就園児3歳児の在籍人数が増え預かり保育利用者も増加した。今後も前期は担当者と他の教職員との連絡連携をしっかり行い、健康で安心安全な運営を心掛けたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な預かり保育の場をつくるため、担当者と担任との連携を密にとる。また、3歳児の様子など必要に応じて担当者をフォローできる教職員体制を整える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本読み聞かせでは、子どもたちは本当によくお話の世界を楽しんでくれていた。3歳児と4・5歳児では興味を持つ絵本に違いがあることを踏まえて、絵本選びをしていきたい。 ・ボール遊びや昔遊びも童心に帰って一緒に遊ぶことをこちらも楽しんでいる。年に数回実施することで子どもの成長も感じる事ができ嬉しく感じている。

（４）子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談クラスたまご組（0～3歳児親子）、ぷちひよこ組（2歳児親子）ひよこ組（未就園児3歳児）を実施し、発達に応じた遊びや活動の場や、子育ての悩み（トイレ・食事など）を話せる場を提供する。 ・在園・未就園児保護者同士が子育ての喜びや苦労を共有し、つながる場として「ほっこり子育てひろば」を行う。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催回数と参加者 ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・教育相談開催日（4月～8月） ひよこ組（週5日毎日開催）、ぷちひよこ組38回・延べ299組、たまご組26回・221組参加・ほっこり子育てひろば4・5・6・7月分 17人、誕生会参加保護者にて実施 日頃の子育てで頑張っていること、うまくいなくて少し悩んでいること、などを交流した。 同じ悩みを抱えていることに共感したり、自身の経験を助言したりしてつながりを深めた。・たまご組ぷちひよこ組「トイレのことを話そう」開催 6組親子参加	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・地域の未就園児親子が集う場を定期的に開催した。遊び場を求める声も聞かれ、保護者は子どもが砂や水に触れられ安心・安全に遊ぶことができる場を求めていることを感じる。・ほっこり子育てひろばでは、他学年の保護者同士が語らうことで自分の子育てへの考えの幅が

	<p>広がり、先輩の助言を聞き気持ちになる様子が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスで生活習慣（トイレ）の話をする場を設けることで、様々な情報を得たり、自分の工夫や苦労などを話すことができ、励みになっていた。また、幼稚園のトイレを使うことで家庭以外のトイレを経験でき、排泄の自立に向かう一助となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>主に在園児対象の誕生会後のほっこり子育てひろばを継続するほか、子育てのことを気軽に話せる機会をたまご組・ぷちひよこ組にて開催する。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>（前期と同様）・教育相談開催回数と参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への新規参入者も増え、保護者同士のつながりが希薄になる中、子育ての不安を相談したりする場所は今後もますます必要になってくる。地域でも子育て中の人同士が話す場は大事にしたいと考えている。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談開催日（8月～2月） <p>ひよこ組（週5日毎日開催）登録者数18人</p> <p>ぷちひよこ組 38+25 回延べ 124+310 組 たまご組 38 回延べ 310 組参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば 9・11・12・1・2 月分 23 人参加 誕生会参加保護者にて実施 ・たまご組ぷちひよこ組「幼稚園ママと話そう」1 回実施
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひよこ組では一時帰国親子など年度途中の家庭事情による未就園児家庭を受け入れた。子ども子育て支援法に当てはまりにくい事情の家庭への支援につながったと考える。 ・教育相談（未就園児クラス）にやってくる家庭は安心して子どもが遊ぶことができる場を求めている。また、クラス時間外でも就園や子の育ちについて様々な相談や質問があり、保護者の不安を聞き取り寄り添うことで、地域の子育て支援を担う役割を少しは果たせたと感じている。 ・ひよこ組では保護者間のつながりもより広く深くなり、送迎時に互いに気軽に子育てのことを話す様子が見られる。ぷちひよこ組・たまご組においても、幼稚園で出会う回数が増えるにつれ保護者同士、子ども同士がつながっていった。保護者同士が互いの子どもを認め合い、注意しあえる関係性を築いている家庭もある。 ・兄弟関係以外が少なくなっており、いかに幼稚園の子育て支援を知ってもらい足を運んでもらうか、が課題としてあげられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の未就園児家庭の方が気軽に来園し、子育ての悩みを担当者や保護者間で話せる場を提供する。 ・広報をさらに工夫する。（深草支所はぐくみ室への情報提供の継続・ポスター掲示・Instagram や HP でのわかりやすい園紹介の発信など）
学校関係	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域へのポスター掲示など、引き続き協力していく。

係 者 評 価	・深草支所とのつながりも大事である。深草幼稚園の活動について、なかよし会からも伝えるようにしていく。
------------------	--

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ふかふか竹林」や稲荷山へ年間を通して出かけて自然に触れ、地域への愛着や地域の人への親しみをもてるよう園内で活動を振り返る。 ・自然（虫）や地域の方への親しみや愛情を深めていけるような交流を行う。 ・学校運営協議会を中心に、地域の方々と園児が関わる機会（苗屋さん・絵本読み聞かせ等）を設け、地域の方々に園の子どもへの願いや活動内容の意味等を伝え、本園の教育活動への理解を促す。 	
（取組結果を検証する）各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域への園外保育（散歩を含む）や園外保育後の保育での子どもの姿の見取り ・保護者や学校運営協議会を含む地域の方の意見の聞き取り 	
アンケート	
「子どもは園外保育を通して深草地域の場所や自然を知ったり、興味を持ったりしている」	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ふかふか竹林」への園外保育では、保護者参画を実施し地域の自然との触れ合いを園がどのように進めているのかを保護者の目で見ていただく機会を作った。 ・地域への園外保育では「みつけバック」を活用し、そこに見つけた自然物をバッグに入れ、帰園後にバックの中を見直すことで見つけたものや行った場所へ思いを寄せていた。 ・苗屋さんや七夕の活動、園外保育の引率、絵本の読み聞かせなど、地域の方が子どもたちにかかわっていただく機会をたくさん設け、子どもたちとのかかわりや園の教育活動への理解を深めた。 	
アンケート：深草地域の場所や自然を知ったり、興味をもっている（A61.3% B38.7%）	
自己 評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林への園外保育に保護者に参画してもらうことで、「地域のこんな豊かな自然があることを知らなかった」「自然がこのようにして守られていることを知ることができて良かった」「幼稚園が自然や地域とのつながりを大切にしている理由が実感できた」などの意見が聞かれ、地域の自然に対する関心が深まり、園の活動に対する理解が一層進んだ。 ・竹林への園外保育など地域を歩く中で、いろいろな気づきをすることで、子どもたちは地域を知り、自然への関心が高まったり愛着を感じたりすることができた。 ・苗さんの活動では、学校運営協議会の方へ招待状を作成し、それを郵送するために切手を貼り郵便ポストへ投函する取組を行った。そのことによって、学校運営協議会の方の存在が子どもたちにとってより近くなり、親しみを感じている様子がうかがえた。
	分析を踏まえた取組の改善
後期は前期と同じ場（稲荷山）にて季節の違いを感じる。また、ドングリ拾いなどの園外保育に出かけ、広く地域を知る機会をつくる。	
園外保育の活動と園内の遊びがつながることで活動が広がり、豊かな経験となるよう工夫する。	
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標	

	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の活動と園内の遊びや生活とのつながりの見取りアンケート ・子どもは、園外保育を通して深草地域の自然や場所を知ったり、興味をもったりしている。 ・子どもは、深草地域のいろいろな人（なかよし会・竹林・科学センター・小中学校などの人）に興味をもってかかわっている
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・稲荷山への引率補助など安全面への協力を行う。 ・ポップコーンパーティーや預かり保育での絵本読み聞かせ、ボール遊びなど園児の活動にかかわる中で子どもたちの成長を感じることができる。かかわりを楽しみにしている。 ・保護者や地域に対して、園の活動内容やそのねらいをつぶさに発信することは、園への理解や信頼を深めていくためにも重要だと思う。引き続き継続して欲しい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育と園内の保育とのつながりを意識した保育を計画したことで、稲荷山での園外保育がこども展の製作や生活発表会の劇あそびへとつながった。 ・竹林への保護者参画を行ったことで、地域への関心を家庭を巻き込んだ取組にすることができた。 アンケート： <ul style="list-style-type: none"> ・深草地域の自然や場所を知ったり、興味をもったりしている。（A51.4% B45.7% C2.9%） ・深草地域のいろいろな人（なかよし会・竹林・科学センター・小中学校などの人）深草地域の自然や場所、名称を知っている。（A48.6% B42.9% C8.5%） ・園は地域の人とつながる機会を設けている（A74.3% B22.9% C2.8%）
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、深草地域の竹林への園外保育に保護者も一緒に参画することを年2回実施した。また家庭科授業の一環による深草中学生との交流も再開した。後期の評価が前期よりも高くなったことから、幼稚園の取組への理解は得られていることが言える。子どもの深草地域への愛着、関心がより高まり、地域に愛され、見守られていることを実感できるよう、子どもへの発信、保護者への発信を続け、深草地域を大事に想える子どもを育てていきたい。 ・園外保育で地域を歩く、拾ったドングリを遊びで使う、つくった凧を地域の小中学校校庭で揚げるなど、園の中と外を遊びや活動でつなぐことで地域への関心や思いがつながっていった。 ・地域の自然文化の象徴でもある稲荷山は観光客も増加し園外保育で一層の注意が必要であるが、なかよし会のサポートにより安全に実施でき、四ツ辻での眺望は山に登った満足感となった。 ・収穫祭になかよし会をお招きすることで、自分たちが取り組んでいることを地域の人に喜んでもらい、より自己有用感や肯定感が増した。 ・穴の開いた伐採木を提供いただき、そこから生まれたカミキリムシに心を寄せ、調べ、育てることでより自然に対する興味や関心が広がり深まった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ふかふか竹林への保護者参画は、今後も継続していく。 ・秋みつけを幼保小の取組にするなど、他の就学前施設の子どもたちと合同で地域の自然に親しみ交流することで、地域への愛着や地域の人への親しみをもつ仲間を増やしていく。

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も稲荷山への園外保育が安全に行えるよう引き続き見守り活動が続けたい。 ・3月のお楽しみ会では、子どもたちの成長をととても感じられた。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が一人一人の力を発揮でき、働きやすさと働きがいを感じられる円滑な園運営を行う 	
具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・会議の開始・終了時刻を明確にし、事前に資料に目を通すなど、時間を意識した進行を行う。 ・ノー残業デーのポスター掲示と職朝での周知を実施する。 ・連絡アプリ活用による登園前の電話対応減少や保護者配布物印刷の一部削減、保護者への発信方法の見直しを行う。 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料の事前配布の状況と時間内での進行状況 ・ノー残業デーの周知と状況 	
アンケート	
「毎日の降園時の伝達や、アプリ配信（毎月のふかふか広場）などで、日々の幼稚園での子どもの遊びや生活の様子、学びなどをわかりやすく発信している」	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料事前配布は概ねできており職員会議は時間内に進行できている。 ・ノー残業デーの周知をしているが、当日の職員朝礼での意識づけが不足している。 	
アンケート アプリ配信などでわかりやすく発信している（A67.7% B32.3%）	
自 己 評 価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デーの周知や職員会議のは会議時間内進行は概ねできている。企画委員会は保育内容にかかわる活動の在り方など吟味に時間がかかる傾向がある。大事な検討事項は丁寧に行うが会議終了時刻を意識していく。 ・園から保護者への発信をアプリ中心にすることで、印刷配布の効率化が図られた。保護者もアプリ配信になれてきた様子がうかがえる。 ・一人一人を大切にしたい保育を目指す中で、働きがいを感じる一方、人員不足から超過勤務が起こってきている。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の開始と終了時刻を明示し、時間を意識した会議の進行をする。 ・それぞれの勤務時間を意識し、超過勤務削減に向けた業務の精選を進めていくよう指示する。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・会議終了時刻の確認 	
アンケート（前期と同じ）	

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学運協の連絡もアプリが導入され、次第に使い方に慣れてきている。 ・保護者への効果的な発信方法を今後も工夫して欲しい。
---------	--

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・会議開始・終了時刻を明示することで時間を意識した会議進行となった。一方、研究活動においては終了時刻がずれ込むこともあった。 ・年度当初「みんなの先生」が各クラスをローテーションすることで園児理解が進み、全教職員の協力体制で全園児を支えていく一助となった。 <p>アンケート</p> <p>連絡ボードはクラスの活動や翌日の準備物の把握に役立っている？ (A77.1% B22.9%)</p>
自己評価	<div>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識した議事進行は概ねできていた。各人に起こる諸課題も日常のコミュニケーションにより概ね共有でき対応することができた。しかし、保育について語り合う研究活動においては時間管理が難しい場面もあった。 ・毎日の降園時の伝達については、保育後の預かり保育利用者の降園時間が各家庭それぞれである日には、日々の事務連絡等の伝達には連絡ボードは役に立っている。しかし、個別に十分子どもやクラスの姿等を伝達したり、保護者と共有したりでききれていない現状もある。 ・連絡アプリの活用によりペーパーレス化が進んでいる。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わりやすさ、明確な伝達を目指し、アプリ活用を進める。 ・「みんなの先生」を年度当初はローテーションで回していく。 ・保育充実のための環境整備など、担任を中心に教職員の連携・協力体制を進める。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月10日の学校運営協議会にて、理事へリーフレットの配布・意見交換を行った。学校での教員の負担軽減や働き方改革、地域の抱える高齢化等による担い手不足など、それぞれの課題やその解決に向けた意見交換を行い、地域主催の深草ふれあいプラザや深草交通安全の日、深草100円商店街等の行事への本園の参加の仕方を見直す中で、幼稚園としての参加について整理できた。 ・なかよし会の連絡も連絡アプリの活用が定着してきた。引き続き、メール本文に直接日時・場所を記載するようにして欲しい。丁寧さよりも簡潔で伝わりやすい発信を心掛け業務改善につなげてほしい。 ・スマホの機種変更による連絡アプリの登録に手間取った。スムーズに登録できるように、引き続き援助をお願いしたい。